

研究主題	地理的な見方や考え方の基礎を培う社会科学習指導の在り方 — 中学校第1学年地理的分野「世界の諸地域」における視点を明確にして地域的特色を追究し、具体的事例を基に話し合い、地域的特色を再考する学習活動を通して —
------	--

1 単元名 「世界の諸地域 ヨーロッパ州」

2 単元目標

- ヨーロッパ州について概観する中で、その州の地域的特色に関心を持ち、設定された主題を意欲的に追究しようとする。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ヨーロッパ州の地域的特色について、設定された主題を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- ヨーロッパ州の地域的特色に関する様々な資料から有用な情報を適切に選択して読み取ったり関連図やワークシートにまとめたりすることができる。(資料活用の技能)
- ヨーロッパ州の地域的特色を、設定された主題を基に人々の生活との関わりから理解し、その知識を身に付けることができる。(社会的事象についての知識・理解)

3 指導に当たって

(1) 教材観

本単元は、世界の各州を対象としてそれぞれの州内に暮らす人々の生活に関わり、かつ我が国の国土の認識を深める上で効果的であるという観点から主題を設定し、その追究を通してそれぞれの州の地域的特色を理解することを主なねらいとしている。そして、生徒が、世界の地理的事象を身近に感じて、取り上げた世界の諸地域についてイメージを構成することができるように、世界の地理的認識を深めていくことが重要である。現在、ヨーロッパ諸国は、ヨーロッパ連合(以下「EU」と表す。)を結成し、政治・経済・社会の面で国家間の統合を目指していることから、主題を「EUの発展と経済的格差」とする。ここでは、「ヨーロッパの国々では、EUの統合によって人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。」という学習課題を設定し、EU加盟国間で国境を越えて買い物や仕事をしている様子、多様な産業の展開、交通機関による人々の結び付きなどを追究することで、ヨーロッパ州の地域的特色の理解につながると考える。

(2) 生徒の実態(男*人, 女*人, 計*人) 調査結果(平成*年*月*日実施*人)

本学級において、「世界の諸地域 アジア州」の学習終了後に、州の特色について記述させたところ、次のような実態がみられた。

既習内容「世界の諸地域 アジア州」終了後の実態調査結果	
○アジア州はどんな分布の特色が見られる地域ですか。	
・州の地域的特色を人々の営みに着目して記述した生徒	*人
・自然環境や産業などについて羅列し、人々の営みに着目して記述していない生徒	*人

実態調査結果から、州の地域的特色を人々の営みに着目して記述することができた生徒は*人であった。残りの*人の生徒は、自然環境や産業などの羅列的な記述にとどまっていた。その中でも自然環境のみの記述が多く、様々な面から州の特色を示す地理的事象を見いだしていないことが分かった。このことから、これまでは地域的特色を概観し、学習課題の追究を通して地域的特色を理解する学習指導を行ってきたが、それだけでは十分ではないことが分かった。この実態を改善するためには、地域的特色を概観するための視点が一面にならないように追究し、その追究過程で考察したことについて、人々の営みを具体的にイメージしながら州の地域的特色を捉えることができるような学習活動の設定が必要と考える。

(3) 指導観

研究主題に迫るために、本単元では、視点を明確にして地域的特色を追究し、具体的事例を基に話し合い、地域的特色を再考する学習活動を行う。まず、視点を明確にして地域的特色を追究し、州の特色を示す地理的事象を見いだす。その上で、人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、学習課題を設定する。そして、EU非加盟であり、過去に二度、国民投票で加盟を否決した国(ノルウェー)を具体的事例として話し合い、人々の生活をイメージしながら州の地域的特色を考察する。最後に、その考察したことを基に、州全体の地域的特色について再考し、人々の営みに着目して州の地域的特色を捉えることができるようにする。以上のような学習活動を通して、地理的な見方や考え方の基礎を培いたい。

4 単元の指導

(1) 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的事象な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
ヨーロッパ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	ヨーロッパ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	ヨーロッパ州の地域的特色に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	ヨーロッパ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、州の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

5 単元の計画

段階	時	学習活動・内容	指導上の留意点と評価 「見方・考え方の基礎」を培う手立て(※)と評価(◎)
見 い だ す	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ ヨーロッパ州についてのイメージを発表する。 ○ 四つの視点から調べたことをワークシートに記入し、地理的事象を見いだす。 ○ 人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、学習課題を設定する。 <p>ヨーロッパの国々では、EUの統合によって人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題についての【追究課題①～④】を確認し、追究活動への見直しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・州の特色を示す地理的事象を、位置や空間的な広がりとの関わりで見いだせるように、四つの視点(自然、産業、生活・文化、歴史)と白地図を取り入れたワークシートを使用する。 ※見いだした地理的事象を、ワークシートの中の白地図に記入させることで位置や空間的な広がりとの関わりで捉えさせ、どこに、どのようなものが、どのように広がっているかという地理的な見方の基礎を培う。 ・単元の学習課題の解決に向けて追究する課題を確認することで、次時からの追究活動に見直しを持たせる。 ・追究課題①～④は学習活動・内容の第2時から第5時に記載。 ◎四つの視点に基づき地理的事象を見いだしている。(関心・意欲・態度)〈ワークシート、話し合いの様子〉
	2	<p>EUの統合によって、人々はEU内でどのような生活をしているのだろうか。【追究課題①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の課題について調べ、民族分布と宗教分布の主題図から追究し、自分の考えを記入する。 <p>EU内ではパスポートなしで国境を自由に通過することができ、国境を越えた通勤や買い物などが盛んである。共通通貨ユーロが導入され、買い物などが簡単になった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国境を越えた通勤では、賃金の高い国に行く人が増えている事実に着目させ、EU内に経済格差があることに気付かせる。 ※主題図から民族と宗教の分布傾向を読み取らせることで、地理的な見方の基礎を培う。また二つの主題図を関連付けて追究させ、分布傾向の共通点を考えさせることで、地理的な考え方の基礎を培う。 ◎資料や話し合いを基に、EU内で自由に国境を越えて活動している様子について、調べたことを人々の生活と比較し関連付けて追究し自分の言葉でワークシートにまとめている。(思考・判断・表現)〈ワークシート、話し合いの様子〉
	3	<p>EUの統合によって、どんな産業がどのように発展してきたのだろうか。【追究課題②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の課題について調べ、農業地域と降水量の主題図から追究し、自分の考えを記入する。 <p>ヨーロッパの産業は、工業の面では、国境を越えた技術協力による航空機等の共同生産や賃金が高い東ヨーロッパへの工場移転が進んでいる。農業の面では、降水量や気温等の気候を生かし、地中海式農業等が行われている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・EUに対するイメージを膨らませるためにアメリカ等の経済に対抗する必要性から統合を目指したEUの成り立ちを説明する。 ・東ヨーロッパへの工場移転が進んでいる理由を問うことにより、西側と東側の加盟国間で経済格差が大きい事実を捉えさせる。 ※産業と自然の視点から見いだした地理的事象を関連付けて追究させることで、なぜ、そこでそのようにみられるのかという地理的な考え方の基礎を培う。 ◎資料や話し合いを基に、多様な産業が地域で展開している様子について調べたことを、人々の生活と比較し関連付けて追究してワークシートにまとめている。(思考・判断・表現)〈ワークシート、話し合いの様子〉
	4	<p>EUの統合によって、どんな交通機関により、人々の生活が、どのように結び付いているのだろうか。【追究課題③④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の課題について調べ、高速鉄道網と人口分布の主題図から追究し、自分の考えを記入する。 <p>ヨーロッパは、高速鉄道網で主要都市が結ばれている。高速道路や航空路線も充実しており、人々は国境を越えて、買い物や通勤等の目的で移動している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ州はほとんどの国が陸続きであるという地域的特性について、島国である日本と比較させることで、我が国の国土の認識を深めるようにする。 ※交通網と人口分布の主題図を使って関連付けて追究させることで交通網の広がり、なぜそこでそのような分布がみられるのかという地理的な見方や考え方の基礎を培う。 ・第2時で使用した、EU内での人々の生活について調べた内容を記入したワークシートと関連付けて追究させることで、具体的な人々の営みをイメージできるようにする。 ・追究した地域的特色をワークシートにまとめることで、州の特色を示す地理的事象を見いだすことができるようにする。 ◎人々の移動の様子と交通機関の広がりを、図や文章でワークシートの白地図に表している。(技能)〈ワークシート〉
考 察 す る	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 追究したことを基に、地域的特色を考察する。 ○ 学習課題に対する自分の考えをワークシートにまとめる。(~~~~は、決めた文型を示す。) <p>ヨーロッパの国々では、EUの統合によって(ア：国境を越えた通勤や買い物などが盛んである。)そのわけは(イ：EU内ではパスポートなしで国境を自由に通過できる)からである。【追究する課題①からの記述例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ア：どのような影響を受けているかを記述。 ・イ：影響を与えている理由を記述する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 主題図を基に、EUに加盟していない国を確認し、非加盟国の中でノルウェーを事例に話し合うことを知り、ノルウェーについて調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四つの調べる視点から分かった事実を根拠にして、学習課題について記述する。 ※書くことが苦手な生徒も根拠に基づいて記述できるように、あらかじめ文型を示したワークシートを用いてまとめさせる。 ※EUの利点を目を向け、より豊かな生活を実現するために努力している人々の営みをイメージしながら地域的特色を考察させることで地理的な見方や考え方の基礎を培う。 ◎ヨーロッパ州の地域的特色について追究した課題と人々の営みとの関わりから理解している。(知識・理解)〈ワークシート〉
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の課題を確認する。 <p>もしも、あなたがノルウェーの国民だったら、3度目の国民投票では、EUへの加盟に賛成か、反対か、立場を決めて話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 実際の国民投票の結果を予想する。 ○ 賛成、反対の立場を決め、その理由と根拠について自分の考えをワークシートに記入する。 ○ 理由と根拠を基にグループで話し合う。 ○ 学級全体で州の地域的特色について話し合う。 ○ ノルウェーを事例にした話し合い活動から、単元の学習課題について再考したことをワークシートに論述する。 <p>ヨーロッパでは、EUの加盟国間で経済格差が問題となっており、所得が高いノルウェーのように、国民が加盟を反対している国もある。ヨーロッパでは、アメリカ等の経済に対抗する必要性や平和の維持のために、それぞれの国の経済格差を乗り越えて、EUの統合を進めてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 州の地域的特色について、まとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な国を事例として取り上げて本時の話し合いを行うことにより、その国の人々の視点や立場から具体的な人々の営みに着目して州の地域的特色を捉えることができるようにする。 ・一人一人が自分の考えを持ち、根拠に基づいて話し合うことができるように、立場を決めた話し合い活動を設定する。 ・国民投票で、反対と賛成がどのくらいの割合であったかを予想させた後、実際のデータを提示(1994年：反対52%、賛成48%)することにより、ノルウェー国民にもEUの加盟について賛否両論があったことを実感させ、どちらの立場に立ってもよいことを説明する。 ・自分が決めた立場とその理由の裏付けとなる根拠について、前時までの学習内容や配付資料から考えさせる。 ・全体の話合いでは、EUの利点と課題の両面からヨーロッパ州の地域的特色を再考し、論述することができるようにする。 ※大小様々な地域が部分と全体とを構成する関係で重層的になっていることを踏まえて、地域的特色を捉えるという地理的な考え方の基礎を培う。 ◎ヨーロッパ州の地域的特色を、EUの利点(または課題)と人々の営みに着目して捉えて、自分の考えを論述している。(思考・判断・表現)〈ワークシート、話し合いの様子〉

6 本時の学習

(1) 目標

具体的事例としてノルウェーを取り上げて、EUへの加盟の是非について立場を決めて話し合うことを通して、人々の営みに着目して州の地域的特色を捉えることができる。

(2) 準備・資料

- ①ヨーロッパ州の拡大地図、②ワークシート、③学習課題について調べたワークシート、④ノルウェーの生活・文化・経済及びEUの仕組みについてまとめた配付資料

(3) 展開

学習活動・内容	資料 形態	指導上の留意点と評価 「地理的な見方や考え方の基礎」を培う手立て (※) 評価 (◎)
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>もしも、あなたがノルウェーの国民だったら、3度目の国民投票ではEUへの加盟に賛成か、反対か、立場を決めて話し合おう。</p> </div> <p>2 賛成、反対についての立場とその理由について自分の考えをワークシートに記入する。</p> <p>3 賛成、反対の立場に基づいて、グループで話し合う。</p> <p>○ 賛成の立場から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ EUに加盟をすれば、買い物や通勤等が盛んになり、人々の生活が豊かになる。 ・ EUに加盟をすれば、他国と技術協力して製品を共同生産することで、産業が発展する。 <p>○ 反対の立場から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ EUに加盟すれば、GDPが高いノルウェーは、GDPが低い国に補助金を支給しなければならなくなる。 ・ EUに加盟すれば、農業の自給率が低いノルウェーは、他国の農作物が輸入されることにより、自国の農業が衰えてしまう。 <p>4 単元の学習課題（EUの統合による人々の生活への影響）について、学級全体で話し合う。</p> <p>5 ノルウェーを事例にした話し合い活動を通して、学習課題について再考したことをワークシートに論述する。</p> <p>6 ヨーロッパ州の地域的特色について、まとめをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ヨーロッパでは、EUの加盟国間で経済格差が問題となっており、所得が高いノルウェーのように、国民が加盟を反対している国もある。</p> <p>ヨーロッパでは、アメリカ等への経済面での競争や平和の維持のために、それぞれの国が経済格差を乗り越えて、EUの統合を進めてきた。</p> </div>	<p>① 全体</p> <p>② 個</p> <p>③ 個</p> <p>④ 個</p> <p>班</p> <p>全体</p> <p>② 個</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な国を事例として取り上げて本時の話し合いを行うことにより、その国の人々の視点から具体的な事実に基づいて、州の地域的特色について考察することができるようにする。 ・ 一人一人が自分の考えを持ち、根拠に基づいて話し合うことができるように、立場を決めた話し合い活動を設定する。 ・ 実際の国民投票結果での反対と賛成の割合を予想させた後、事実を提示（1994年：反対52％、賛成48％）することで、EUの加盟について賛否両論があったことを実感させ、どちらの立場を選んでもよいことを説明する。 ・ 自分が決めた立場とその理由の裏付けとなる根拠について、前時までの学習内容や配付資料から考えさせる。 ・ 賛成か反対の立場とその理由が、自分の思い付きにならないように、「どんな事実から考えたのか」という根拠が重要であることを説明する。 ・ グループでは、具体的な根拠を中心にして話し合わせることにより、反対の立場では、加盟をした場合GDPが低い国に補助金を支払う不安があること、賛成の立場では、EUの利点や意義からヨーロッパ全体を考えていることなどに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の話し合いでは、EUの利点と課題に関わる具体的な事実を基に話し合うことで、人々の営みに着目して州の地域的特色を捉えることができるようにする。 ・ 話し合いを通して、賛成・反対の立場が変わったかを聞き、変わった場合は、その理由を聞く。 ・ 話し合いを通して、EUの存在価値や課題について判断し、単元の学習課題について再考したことをワークシートに論述させる。 <p>※個々に利害を持つ国（部分）とEU（全体）の関係を踏まえて再考することで、大小様々な地域が部分と全体とを構成する関係で重層的になっているという地理的な考え方の基礎を培う。</p> <p>◎EUの利点（または課題）と人々の営みに着目して州の地域的特色について論述している。（思考・判断・表現） 〈ワークシート、話し合いの様子〉</p>